

東交交第 97 号
令和 3 年 2 月 26 日

山形県バス対策協議会 会長 殿

東北運輸局長
(公印省略)

令和 2 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について

標記について、東北運輸局において二次評価を実施したので、別添のとおり二次評価結果を通知します。

東北運輸局二次評価結果（地域間幹線系統）

自治体・協議会名	山形県地域公共交通活性化協議会
----------	-----------------

二次評価結果

全体への評価

・地域の生活交通を守る路線バスの運行の維持・確保に向け、利便性向上のための路線再編及びダイヤ改正の実施、沿線施設への広報活動等、事業者、沿線市町村との利用促進に係る協議等を行い、連携した取組が行われている事を評価いたします。引き続き地域住民のバスの利用促進の取組を進めていただきますようお願いいたします。

・新型コロナウイルスの感染拡大による影響が大きく、観光需要によるバス利用が短期的には望めない状況ではありますが、状況が改善された時に対応できるよう、引き続き観光需要の取り込みによる利用者確保の取組についても、関係者と協議・検討を継続していただきたい。

個別系統に対するコメント

なし

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株)	<p>・地域連携DMOとの連携による旅行商品の造成。フラワー長井線と企画乗車券を作成。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。</p>	<p>【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■白鷹町・長井市までの格安往復乗車券や観光地との共同バス券などの制作及び販売を継続・強化する。■地域連携DMO(「一社」)やまがたアルカディア観光局)との連携による当該路線を活用した旅行商品の造成を検討し、利用者拡大を目指していく。■モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。)</p> <p>【事業評価結果の反映状況】 ・「長井・白鷹⇄山形」の往復乗車券と「フラワー長井線」の1日乗車券、道の駅「川のみなと長井」でのお買い物券をセットにした企画乗車券を作成。 ・系統番号(行先番号)を導入。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施されている。</p>	<p>B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:5.9回→実績:5.9回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:20.6人→実績:14.7人 ■達成状況 通勤・通学利用者が多く新型コロナウイルスの影響による休校措置等により想定より利用者数が減少した。目標未達成のため、取組を継続する。</p>	<p>・今後も観光地と連携した商品の制作及び販売を継続・強化し、通勤通学客以外(朝夕以外の利用者)の拡大を目指していく。 ・交通系ICカードを導入(R4~)、利便性を高める。</p>
山形市役所(六角・荒砥)長井線 (山形市~長井市)	<p>・前年度に引き続き、路線見直しを検討するとともに乗降調査を継続的に行い便数の適正化等により乗車効率の増加を目指す。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。</p>	<p>【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■継続して乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市(山形市・天童市)とともに路線維持に向けた取組みを推進していく。■モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。)</p> <p>【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤについて見直しを図り定時運行による利便性向上を図った。 ・系統番号(行先番号)を導入。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施されている。</p>	<p>B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:13.5回→実績:13.5回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:52.6人→実績:48.6人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。</p>	<p>・継続して乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・天童市)とともに路線維持に向けた取組みを推進していく。 ・交通系ICカードを導入(R4~)、利便性を高める。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 県立中央病院(表蔵王・四ツ谷)高松葉山線 (山形市～上山市)	・スポーツセンターの利用者に対しバス利用促進のためのPRの実施。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおりに、山形と上山を結ぶ10系統について、統廃合も視野に入れて乗降調査を継続していく。乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・スポーツセンター・県立中央病院のほか沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。 ・スポーツセンターホームページのバス利用アクセス案内について、時刻表・地図を掲載するなどの改善を依頼。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:6.6回→実績:6.6回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:26.4人→実績:23.7人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・山形と上山を結ぶ10系統について、統廃合も視野に入れて乗降調査を継続していく。 ・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 山形(若葉町・南山形)高松葉山線 (山形市～上山市)	・乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを推進。 ・沿線の観光施設と連携した取組の強化。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおりに、山形と上山を結ぶ10系統について、統廃合も視野に入れて乗降調査を継続していく。乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・利便性向上のため、山形駅での乗降を考慮しダイヤ改正を実施。 ・沿線市町村(山形市・上山市)での利用促進策等の取組として、山形市内の病院、スーパー、高校を中心に時刻表を重点的に配布し周知を行った。 ・観光施設等と連携した特典企画商品の作成。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:15.5回→実績:15.5回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:79.0人→実績:62.0人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・沿線の観光施設と連携した取組を今後も継続していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 寒河江駅前(松川・左沢)宮宿 線 (寒河江市～朝日町)	・高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線(寒河江市・大江町・朝日町)及び近隣市町村とともに取組む。 【前回の事業評価結果】 ・自己評価のとおり (■高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線市町村(寒河江市・大江町・朝日町)とともに利用促進策等の取組みを推進し、JR左沢線への乗り継ぎを重視したダイヤへの改善を検討していく。■モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・運賃の改定に向けた取組みを実施。 ・近隣の高校に路線別の時刻表等を配布しPRを行った。 ・沿線市町村と通学支援や高齢者の移動支援に継続して行った。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	■運行回数(移動機会の確保) 計画:5.4回→実績:5.4回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:14.5人→実績:14.5人 ■達成状況 運行回数、輸送量とも実績が計画通りであり、目標は達成されており、R3計画では輸送量が15人以上になっている	・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。
山交バス(株) 寒河江駅前～谷地線 (寒河江市～河北町)	・高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線(寒河江市・河北町)及び近隣市町村とともに取組む。 【前回の事業評価結果】 ・自己評価のとおり (■高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線及び近隣市町村とともに利用促進策等の取組みを推進する。■モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。 ・運行運延の解消のため、路線分断を実施。 ・路線再編と併せて運賃改定を実施。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B 計画どおり事業は適切に実施されている。	■運行回数(移動機会の確保) 計画:11.5回→実績:11.5回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:52.9人→実績:42.5人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、利便性を高める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 山交ビル～寒河江駅前線 (山形市～寒河江市)	改善事業の概要 ・高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線(山形市・寒河江市・中山町)及び近隣市町村とともに取組む。 ・分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。 ・バス車両2両購入	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■高校生の通学及び高齢者の通院等での利用促進に向け、沿線及び近隣市町村とともに利用促進策等の取組みを推進する。■モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・寒河江駅前～谷地線の再編にとまらない、利便性の向上を図った。 ・乗降の少ない中山町の利用促進のため、中山町との協議を実施。 ・沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:19.4回→実績:19.4回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:60.1人→実績:52.3人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む) ・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)、利便性を高める。
山交バス(株) 天童(東根市役所)北町線 (天童市～村山市)	改善事業の概要 ・沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取組みを継続して推進。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■再編後も乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取組みを継続して推進していく。■モバイル1日乗車券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の高校と協議し、ダイヤ改正を実施。 ・沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:6.9回→実績:6.9回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.9人→実績:12.4人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む) ・今後も沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取組みを継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)、利便性を高める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株) 山交ビル(県立中央病院・高 楯)天童温泉線 (山形市～天童市)	・路線再編に向け天童市と協議。 ・分かりやすい表示に向けて、方 面記号・行先番号を導入し利便性 向上を図る。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■利便性の高い路線再編に向け 沿線の天童市と協議していく。■モ バイル1日乗車券を導入し利便性 を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤの見直しを実施。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施 されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:3.0回→実績:3.0回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:15.0人→実績:6.9人 ■達成状況 運行回数は計画通りであった が、新型コロナウイルスの影響 により輸送量は減少した。目標 未達成のため、取組を継続す る。	・利用者が特定の客層であること からなかなか再編が難しいが、(県 立中央病院及び運転免許セン ター)便数、輸送量が少ない為、路 線のあり方を今後も沿線市町村・ 県と検討していく。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、 利便性を高める。
山交バス(株) 山交ビル(長岡・漆山)天童温 泉線 (山形市～天童市)	・沿線市町村(山形市・天童市)と もに利用促進策等の取り組みを継 続して推進。 ・分かりやすい表示に向けて、方 面記号・行先番号を導入し利便性 向上を図る。 ・バス車両1両購入	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■継続して沿線市(山形市・天童 市)とともに利用促進策等の取組 みを推進する。■モバイル1日乗車 券を導入し利便性を高める。) 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の病院・スーパー・高校を中 心に路線別時刻表を重点的に配 布しPR等を実施。 ・系統番号(行先番号)を導入。	A 計画どおり事業は適切に実施 されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:23.0回→実績:23.0回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:78.2人→実績:59.8人 ■達成状況 運行回数は計画通りであった が、新型コロナウイルスの影響 により輸送量は減少した。目標 未達成のため、取組を継続す る。	・今後も沿線市町村(山形市・天童 市)とともに利用促進策等の取組 みを継続して推進する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、 利便性を高める。
山交バス(株) 県立病院～金山線 (新庄市～金山町)	・ゾーン制運賃を継続し、利用者が 減員とならないよう沿線市町村(金 山町・新庄市)と協力してPR活動 を実施。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■ゾーン制運賃の継続し、利用 者が減員とならないよう金山町・新 庄市と協力してPR活動を実施して いく。) 【事業評価結果の反映状況】 ・通学利用の利便性向上のための 路線再編を実施。 ・金山町に通学定期利用者増のた めの補助を依頼。	A 計画どおり事業は適切に実施 されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:9.0回→実績:9.0回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:47.7人→実績:27.9人 ■達成状況 運行回数は計画通りであつ たが、新型コロナウイルスの影 響により輸送量は減少した。目 標未達成のため、取組を継続 する。	・今後も沿線市町村(金山町・新庄 市)と協力して利用促進のためのP R活動を継続する。 ・交通系ICカードを導入(R4～)し、 利便性を高める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
㈱新庄輸送サービス 県立病院～肘折線 (新庄市～大蔵村)	改善事業の概要 ・貨客混載便の継続 ・観光利用の促進強化	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■貨客混載便は、実証実験から需要が有り、高齢化や輸送業の人手不足から益々需要が見込まれることから、新規の計画も立案し事業の継続を図る。■継続して観光利用の促進強化を図る。) 【事業評価結果の反映状況】 ・貨客混載の実証実験を継続して実施。 ・肘折温泉～新庄間の往復乗車券の販売を継続。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	B ■運行回数(移動機会の確保) 計画:5.6回→実績:5.6回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:15.1人→実績:13.4人 ■達成状況 運行回数は計画通りであったが、新型コロナウイルスの影響により輸送量は減少した。目標未達成のため、取組を継続する。	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む) ・貨客混載便は、実証実験から需要が有り、高齢化や輸送業の人手不足から益々需要が見込まれることから、新規の計画も立案し事業の継続を図る。 ・継続して観光利用の促進強化を図る。
庄内交通㈱ 鶴岡(モール・イオン三川、日本海病院)酒田線 (鶴岡市～酒田市)	・利用実態及び地域需要に見合った路線形態の検討。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■地域需要に見合った路線形態を沿線市町と協議し、利便性の高い路線を目指す。) 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の各自治体と問題提起を行い検討を開始。 ・利便性向上のため、バスロケーションシステムを導入した。 ・「学生100円バス」を継続して設定し、高校における利用促進課題研究授業への協力を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■運行回数(移動機会の確保) 計画:7.2回→実績:7.2回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.2人→実績:20.8人 ■達成状況 運行回数、輸送量とも実績が計画を上回っており、目標は達成されている。	・地域需要に見合った路線形態を沿線市町と協議し、利便性の高い路線を目指す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 1月28日

協議会名: 山形県地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
庄内交通(株)	・利用実態及び地域需要に見合った路線形態の検討。	【前回の事業評価結果】 自己評価のとおり (■地域需要に見合った路線形態を沿線市町と協議し、利便性の高い路線を目指す。) 【事業評価結果の反映状況】 ・沿線の各自治体と問題提起を行い検討を開始。 ・利便性向上のため、バスロケーションシステムを導入した。 ・「学生100円バス」を継続して設定し、高校における利用促進課題研究授業への協力を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	■運行回数(移動機会の確保) 計画:6.6回→実績:6.6回 ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.1人→実績:17.1人 ■達成状況 運行回数、輸送量とも実績が計画を上回っており、目標は達成されている。	・地域需要に見合った路線形態を沿線市町と協議し、利便性の高い路線を目指す。
鶴岡(ゆぽか)羽黒山頂線 (鶴岡市～旧羽黒町)					

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	1	山形市役所(六角・荒砥)長井	山形市役所前	六角荒砥	道の駅 川のみなど長井	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①地域連携DMOとの連携による旅行商品の造成。フラワー長井線との企画乗車券を作成する。(R2年度中)</p> <p>②分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。(R2.4)</p> <p>【実施主体】 山交バス(株)・長井市・白鷹町・南陽市・上山市・山形市</p> <p>【効果目標】 増収率2.0%増 183名 × 3,100円 = 567千円 567千円 / 28,855千円 = 2.0%</p> <p>【取組効果】 減収減員 乗車人員:-11,199名 収入:-7,033,131円</p>	<p>①「長井・白鷹⇄山形」の往復乗車券と「フラワー長井線」の1日乗車券、道の駅「川のみなど長井」でのお買い物券をセットにした企画乗車券を作成。(R2.9)</p> <p>②系統番号(行先番号)を導入。(R2.4)</p> <p>③南館地区幼稚園及び保育園にて2件の乗り方教室を実施した。(R1.10・R1.11)</p> <p>④前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企画商品を作成。(長井市内協定施設2件)</p> <p>⑤長井線限定の路線別時刻表を作成し主要ターミナル・管内のコミュニティセンター・バス車内に置いてPR告知を図った。(R2.4)</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-7,033,131	-80,865	45.1%	34.2%
							目標未達成					

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	2	山交ビル(荒谷・石倉)天童	山交ビル	荒谷石倉	天童駅前	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①路線見直しを検討するとともに乗降調査を継続的に 行い便数の適正化等により乗車効率の増加を目指す。 ②分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を 導入し利便性向上を図る。(R2.4) ③朝夕の定期券利用者が多いことから定期券利用者 の増加をはかるPRを実施する。 ④乗車率の低い天童市内の利用促進を図るためバス 停周辺の地区において利用促進PRを実施する。</p> <p>【実施主体】 山交バス㈱・山形市・天童市 【効果目標】 増収率1.8%増 3,440名×205円＝705千円 705千円/39,188千円＝1.8%</p>	<p>①ダイヤについて見直しを図り定時運行による利便性 向上を図った。(R2.4) ②系統番号(行先番号)を導入。(R2.4) ③山形・天童市内の公民館・沿線の病院・スーパー・ 高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を 実施した。 ④前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企 画商品を作成した。(天童市内協定施設7件 前年度 +1件)</p> <p>【取組効果】 増収増員 乗車人員:-27,324名 収入:-3,843千円</p>	【今後の方向性】 交通系IC カードをR4～ に導入予定。	-3,842,596	1,649,184	65.7%	57.7%
							目標未達成					

【記載要領】

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績欄には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	3	県立中央病院(表蔵王・四ツ谷)高松葉山	県立中央病院	表蔵王口 四谷	高松葉山 温泉	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①山形と上山を結ぶ系統が10系統存在するため、統廃合などにより効率的な運行を図る。県立中央病院とタイヤの更なる適正化を協議する。</p> <p>②スポーツセンターの利用者に対しバス利用の促進をPRする。</p> <p>③分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。(R2.4)</p> <p>【実施主体】 山交バス㈱・山形市・上山市</p> <p>【効果目標】 増収率1.2%増 1,235名×208円=257千円 257千円/21,391千円=1.2%</p>	<p>①スポーツセンター・県立中央病院のほか沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施した(R2.4)</p> <p>②スポーツセンターホームページのバス利用アクセス案内について、時刻表・地図を掲載し分かりやすいものに改修してもらった。(R2.4)</p> <p>③系統番号(行先番号)を導入。(R2.4)</p> <p>④前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企画商品を作成した。(上山市内協定施設10件 前年度+5件)</p> <p>【取組効果】 増収増員 乗車人員:-14,643名 収入:-1,999千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-1,999,125	855,023	66.8%	59.0%
							目標未達成					

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	4	山形(若葉町・南山形)高松葉山	千歳公園待合所	若葉町・南山形	高松葉山温泉	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①乗降調査を継続的に実施し便数の適正化等により乗車効率の増加を目指す。</p> <p>②沿線の黒沢温泉施設との接続性をPRし、路線バスを利用した日帰り入浴の商品企画を検討する。</p> <p>③利用拡大のための住民説明会や乗り方教室を実施する。</p> <p>④分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。(R2.4)</p> <p>【実施主体】 山交バス(株)・山形市・上山市</p> <p>【効果目標】 増収率1.0%増 3,424名×170円=582千円 582千円/58,215千円=1.0%</p>	<p>①利便性向上のため、山形駅での乗降を考慮しダイヤ改正を実施。(R2.4)</p> <p>②前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企画商品を作成した。(沿線の黒沢温泉施設も継続して加盟)</p> <p>③沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施した(R2.4)</p> <p>④系統番号(行先番号)を導入。(R2.4)</p> <p>【取組効果】 減収減員 乗車人員:-78,162名 収入:-11,080千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-11,079,953	1,823,631	86.5%	68.2%
						目標未達成						

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	5	寒河江駅前(松川・左沢)宮宿	寒河江駅前	松川・左沢	朝日町役場前	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①朝日町ワイン城が沿線にあることから、路線バスで行けるチラシを作成し観光地と連携しながらPRする。(R2.3)</p> <p>②R2.10に向け利便性向上のため運賃の見直しを検討。</p> <p>【実施主体】 山交バス(株)・寒河江市・大江町・朝日町</p> <p>【効果目標】 増収率2.0%増 1,850名×154円=285千円 285千円/14,287千円=2.0%</p>	<p>①市町村により西村山地域の公共交通マップを作成。</p> <p>②運賃の見直しを図りR2.10からのゾーン制運賃導入に向けた取り組みを実施。</p> <p>③左沢線への乗降を考慮し、ダイヤ改正を実施。(R2.4)</p> <p>④左沢高校・寒河江工業・寒河江高校・谷地高校へ路線別の時刻表等を配布しPRした。(R2.4)</p> <p>⑤朝日町と通学定期補助制度を継続して実施。</p> <p>⑥朝日町・大江町と高齢者外出支援制度を継続して実施。</p> <p>【取組効果】 増収増員 乗車人員:-3,241名 収入:-945千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-945,230	-47,872	49.3%	46.2%
							目標未達成					

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	6	寒河江駅前～谷地	寒河江駅前		ひなの湯・産直センター前	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①路線が長く頻繁に運行遅延が発生していたためR1.10に「山形⇄寒河江」「寒河江⇄谷地(ひなの湯・産直センター前)」へ分断。(山形⇄寒河江は⑦に統合) 新しい「寒河江～谷地(ひなの湯・産直センター前)」線について、PRを図る。(R1.10) ②路線再編と併せて利便性向上のため新運賃を実施。PRを図る。(R1.10)</p> <p>【実施主体】 山交バス(株)・寒河江市・河北町</p> <p>【効果目標】 路線再編初年度のため目標値の設定はなし。</p>	<p>①左沢線と路線バス「山形～寒河江線」との乗り換えを考慮したダイヤ作成を行った。(R1.10) ②新運賃(ゾーン制運賃)の導入で利用者増を図った。(R1.10) ③沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施した。(R1.10)</p> <p>【取組効果】 乗車人員:66,806名 収入:15,802千円 費用:31,376千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	比較対象なし	比較対象なし	—	50.4%

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	7	山交ビル～寒河江駅前	山交ビル	中山	寒河江駅前	<p>【取組内容及び実施時期】 ①路線が長く頻繁に運行遅延が発生していたためR1.10に「山形⇄寒河江」「寒河江⇄谷地(ひなの湯・産直センター前)」へ分断。 併せて、左沢線の寒河江駅への接続を考慮しながら運行の効率化のため便数や運行時間の見直しを実施。PRを図る。 ②分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。(R2.4)</p> <p>【実施主体】 山交バス株・山形市・中山町・寒河江市</p> <p>【効果目標】 増収率110%増 101,602名×191円＝19,406千円 19,406千円/17,641千円＝110%</p>	<p>①路線再編に伴い定時運行に努め利便性向上を図った。(R1.10) ②系統番号(行先番号)を導入。(R2.4) ③乗降の少ない中山町の利用者を増やすため、中山町と運行経路等について協議。(R2.9) ④沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施。(R2.4) ⑤前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企画商品を作成。 ⑥「七小前」「城北」「錦町」停留所について、新たに上屋を建て待合所の整備を行った。(R1.12)</p> <p>【取組効果】 増収増員 乗車人員:+125,228名 収入:+23,999千円 費用 +58,988千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	比較対象にならない	比較対象にならない	61.3%	47.4%
						R1.10からの⑥の再編に伴い便数が増加したため						

往復の便数	R1.9まで	R1.10から
平日	17	47
土	6	25
日祝	6	25

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	8	天童駅前 (東根市役所) 村山北町	天童駅前	東根市役所前	北町	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①沿線の村山産業高校・村山特別支援学校などとダイヤや便数の協議を実施。</p> <p>【実施主体】 山交バス株・天童市・東根市・村山市</p> <p>【効果目標】 増収率1.5%増 1,370名×143円＝196千円 196千円/13,074千円＝1.5%</p> <p>【取組効果】 乗車人員:-10,441名 収入:-3,131千円</p>	<p>①沿線にある村山産業高校の通学に合わせたダイヤ改正を実施。(R2.4)</p> <p>②学生の定期券利用者増を目指し、バス待合所などに定期券案内の貼り紙を掲出した。(R1.12)</p> <p>③沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施した。(R2.4)</p> <p>④「公立病院」停留所について、上屋を改修し待合所の整備を図った。(R2.8)</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-3,130,516	788,694	46.0%	34.1%
							目標未達成					

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	9	山交ビル(県立中央病院・高楯)天童温泉	山交ビル	県立中央病院・高楯	わくわくランド	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①運輸免許センター・県立病院の特定ニーズのある路線(輸送量はぎりぎりの路線)のため、維持する方向で調整。便数の適正化等・ダイヤの見直し等により乗車効率の増加を目指す。</p> <p>②分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。(R2.4)</p> <p>【実施主体】 山交バス(株)・山形市・天童市</p> <p>【効果目標】 増収率1.0%増 343名×248円=85千円 85千円/8,469千円=1.0%</p>	<p>①ダイヤについて見直しを図り利便性向上を図った。(R2.4)</p> <p>②系統番号(行先番号)を導入。(R2.4)</p> <p>③沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施した(R2.4)</p> <p>④前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企画商品を作成した。(天童市内協定施設7件 前年度+1件)</p> <p>【取組効果】 減員減収 乗車人員:-17,860名 収入:-4,299千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-4,299,123	340,659	79.4%	37.9%
							目標未達成					

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	10	山交ビル(漆山)天童温泉(長岡)天童温泉	山交ビルバスターミナル	漆山長岡	わくわくランド	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①山形県総合運動公園・NDスタジアムヘチラシを配布しPRを行う。</p> <p>②分かりやすい表示に向けて、方面記号・行先番号を導入し利便性向上を図る。(R2.4)</p> <p>【実施主体】 山交バス㈱・山形市・天童市</p> <p>【効果目標】 増収率1.5%増 4,411名 × 192円 = 847千円 847千円/56,493千円 = 1.5%</p>	<p>①沿線の病院・スーパー・高校を中心に路線別時刻表を重点的に配布しPR等を実施した(R2.4)</p> <p>②系統番号(行先番号)を導入。(R2.4)</p> <p>③前年度に引き続き、路線バス利用者限定の特典企画商品を作成した。(天童市内協定施設7件 前年度+1件)</p> <p>【取組効果】 増員増収 乗車人員:-73,180名 収入:-13,307千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-13,307,431	1,808,607	61.5%	46.1%
						目標未達成						

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	11	県立病院～金山	県立病院前	泉田	金山	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①H31.4より実施したゾーン制運賃について、金山町報・新庄市報を利用した町民市民に対する周知徹底などのPR活動。</p> <p>【実施主体】 山交バス(株)・新庄市・金山町</p> <p>【効果目標】 増収率3.0%増 3,467名×169円＝586千円 586千円/19,536千円＝3.0%</p>	<p>①通学定期利用者増のため金山町に対し、購入者に対する補助制度のお願いを行った。(R2.6)</p> <p>②高校生による通学利用の利便性向上のため、新たに停留所を設け路線の再編を行った。(R2.4)</p> <p>【取組効果】 増員減収 乗車人員:-17,738名 収入:-7,247千円</p>	【今後の方向性】 交通系ICカードをR4～に導入予定。	-7,246,653	1,025,951	54.1%	33.1%
							目標未達成					

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	株式会社 新庄輸送サービス
------	---------------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	12	県立病院～肘折線	県立病院	清水	肘折温泉待合所	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①貨客混載：スーパー等と連携した買い物代行サービスについて検討。(平成30年3月まで)</p> <p>②路線再編：新幹線到着時間に合わせたダイヤ改正(増便 6⇒7便へ)(平成30年3月まで)</p> <p>③混乗化：本路線に対する村営スクールバスの接続改善(平成30年3月まで)</p> <p>④観光利用促進：日帰り温泉パック等の商品開発(平成30年3月まで)</p> <p>【実施主体】</p> <p>株式会社 新庄輸送サービス (大蔵村)</p>	<p>【取組実績】</p> <p>①平成30年5月より実証実験実施したが商業ベースに至らず、但し需要あり輸送支援で継続中。(取り扱い: 268件、9件・月)</p> <p>②平成29年4月より実施済み。</p> <p>③平成30年4月より実施済み。本幹線に接続する支線のダイヤを改正。</p> <p>④平成30年4月より肘折温泉-新庄間の往復券(8%引き)を作成し運用継続。(1704枚、売上1,874千円)</p> <p>【取組効果】</p> <p>②③④の取組継続今年度は、新型コロナ等の発生もあり利用者、運賃収入、輸送量共に減となる。</p>	<p>【今後の方向性】</p> <p>路線近郊の乗客人数も頭打ちにあり、観光客を主とした他の乗客需要の掘り起こしの新規改善が必要。</p>	▲2,155千円 (-23.7%)	▲1,626千円 (-4.1%)	23.37%	18.61%

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	庄内交通株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	13	鶴岡(モール・イオン三川・日本海病院)酒田	外内島	エスモール・イオン三川・日本海総合病院・イオン酒田南店	ゆたか1丁目	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①利用実態及び地域需要に見合った路線形態の検討</p> <p>②『つるおか1日乗り放題券』の拡販</p> <p>③『学生100円バス』の利用者拡大</p> <p>④高齢者・観光利用者の利用促進の為、路線別時刻表の作成及び配布(令和2年3月より)</p> <p>⑤利便性向上のためバスロケーションシステム導入(令和1年12月)</p> <p>【実施主体】</p> <p>①庄内交通(株)、鶴岡市、酒田市、三川町</p> <p>②庄内交通(株)、鶴岡市</p> <p>③庄内交通(株)、鶴岡市</p> <p>④庄内交通(株)</p> <p>⑤庄内交通(株)</p> <p>【効果目標】</p> <p>②～⑤の取組により、利用者1,100人増を見込む。増収率1.0%増とする。</p>	<p>【取組実績】</p> <p>①各自治体と問題提起を実施し、検討を開始</p> <p>②各所へ案内チラシの配布、駅前や販促イベントでの告知</p> <p>③バス車内へのポスター掲示(鶴岡管内路線バス40両)、県立高校での利用促進課題研究授業への協力</p> <p>④時刻表の作成(令和2年3月)</p> <p>路線別時刻表はエスモールバスターミナルや駅前へ設置しHPへも掲載(令和2年4月)</p> <p>⑤各バス停留所へバスの走行位置情報を入手できるQRコードを掲示し、当該バス停へのバスの接近情報が入手可能となる</p> <p>【取組効果】</p> <p>②について、前年比 ▲3,553千円の減収(全社実績)</p> <p>③について、前年比 ▲576回の利用回数減少(全社実績)</p> <p>④について、高齢者定期券 前年比 ▲1,532千円の増収(全社実績)</p>	<p>【今後の方向性】</p> <p>地域の路線再編をすすめ、利便性を向上させる。</p>	▲ 456,898	3,090,889	38.69%	36.38%

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

事業者名	庄内交通株式会社
------	----------

地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組実績(R2年度)

協議会等名	申請番号	運行系統名	起点	主な経由地	終点	地域公共交通確保維持事業の生産性を向上させる取組		備考	対元年度比 収入増減額	対元年度比 費用増減額	R1年度 収支率	R2年度 収支率
						計画	取組実績					
山形県地域公共交通活性化協議会	14	鶴岡(ゆぼか)羽黒山頂	エスモール	ゆぼか・荒川	羽黒山頂	<p>【取組内容及び実施時期】</p> <p>①利用実態及び地域需要に見合った路線形態の検討 ②『つるおか1日乗り放題券』の拡販 ③『学生100円バス』の利用者拡大 ④高齢者・観光利用者の利用促進の為、路線別時刻表の作成及び配布(令和2年3月より) ⑤利便性向上のためバスロケーションシステム導入(令和1年12月)</p> <p>【実施主体】</p> <p>①庄内交通(株)、鶴岡市、酒田市、三川町 ②庄内交通(株)、鶴岡市 ③庄内交通(株)、鶴岡市 ④庄内交通(株) ⑤庄内交通(株)</p> <p>【効果目標】</p> <p>②～⑤の取組により、利用者1,600人増を見込む。増収率1.0%増とする。</p>	<p>【取組実績】</p> <p>①各自治体と問題提起を実施し、検討を開始 ②各所へ案内チラシの配布、駅前や販促イベントでの告知 ③バス車内へのポスター掲示(鶴岡管内路線バス40両)、県立高校での利用促進課題研究授業への協力 ④時刻表の作成(令和2年3月) 路線別時刻表はエスモールバスターミナルや駅前へ設置しHPへも掲載(令和2年4月) ⑤各バス停留所へバスの走行位置情報を入手できるQRコードを掲示し、当該バス停へのバスの接近情報が入手可能となる</p> <p>【取組効果】</p> <p>②について、前年比 ▲3,553千円の減収(全社実績) ③について、前年比 ▲576回の利用回数減少(全社実績) ④について、高齢者定期券 前年比 ▲1,532千円の増収(全社実績)</p>	<p>【今後の方向性】</p> <p>地域の路線再編をすすめ、利便性を向上させる。</p>	▲ 8,827,109	291,186	63.77%	41.78%

[記載要領]

- この書類は、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む。以下同じ。)の策定主体である都道府県協議会等と協議の上、作成すること。
- 各欄は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)に係る内容を運行系統ごとに記載すること。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載すること。
- 計画欄には、生活交通確保維持改善計画(地域間幹線系統確保維持計画を含む)に記載した補助対象期間に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項を、取組実績には、計画に対応した補助対象期間の実績をそれぞれ記載すること。
- 備考欄には、今後の対応の方向性等特記すべき事項について記載すること。

生活交通確保維持改善計画の名称

山形県地域間幹線系統確保維持計画

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

本県では、総人口が減少する一方で65歳以上の高齢者数が年々増加する中、平成29年3月の改正道路交通法の施行を契機に自動車運転免許の返納も増加傾向にあるなど、移動手段を公共交通に頼らざるを得ない、いわゆる交通弱者が増加することが見込まれている。

一方では、学校、病院、行政機関の再編統合、郊外型大型店舗の進出に伴う地元商店街の衰退等により、県民の生活圏が拡大しており、地域間幹線系統のバス路線は、通院、通学、通勤、買い物等の日常生活を行う上で不可欠な移動手段となっている。

しかしながら、少子高齢化やモータリゼーションの進展等により、本県におけるバス利用者数は、この30年間で8割以上減少し、現在も減少傾向に歯止めがかからない状況にあり、バス事業者は極めて厳しい経営環境に置かれている。

これらのことから、一定規模の乗合バス事業をバス事業者が単独で継続運行することが困難な状況になっており、国、県による地域公共交通確保維持事業による支援が必要となっている。

今回、当該計画において認定申請する幹線バス系統は、鉄道、幹線系統以外の路線バス、市町村が維持に努めるバスやデマンド型交通との接続や、各地域の中核的な医療機関や高等学校等の公共施設など利用者のニーズに対応しているものである。特に、鉄道のない市町村については、移動手段の確保に特段の配慮を行っている。

本協議会としては、県民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へとつながるよう、今後とも複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバス系統の確保・維持に努めていく。

また、増加傾向にある補助金の抑制を図るため、バス事業者や沿線の市町村と連携し、運行の効率化のための路線の再編や便数の適正化の検討、貨客混載等による新たな収益の確保、利用者増につながるモビリティ・マネジメント等の生産性の向上に向けた取組みを進めるものとする。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

第3次山形県総合発展計画の短期アクションプラン（平成29年度～32年度）における地域公共交通に係る目標は、人口減少、少子高齢化が進展する中において、県民一人当たりの県の支援対象のバス路線（地域間幹線系統を含む）の利用回数を現状維持の3.5回/年と設定している。

この目標を達成するためには、特に地域間幹線系統の維持・利用拡大が不可欠であり、各系統において後述の生産性向上の取組みを進めながら、表2に記載する計画輸送量の達成を目標とする。

(2) 事業の効果

地域間幹線バス系統を維持することにより、地域で生活する移動制約者の生活に必要な不可欠な交通手段が確保される。また、広域的・幹線的系統と地域的・支線的系統の有機的な連携により、効率的なバスネットワークが形成され、県民の社会参加促進や地域活性化にもつながる。

定量的な事業目標を導入することにより、運行費用を抑制や効率的な運行を促進し、適切な受益者負担やサービス水準へ誘導することが期待できる。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

- ・観光需要を取り込むための企画乗車券の販売
(鶴岡市、新庄市、長井市、金山町、大蔵村、白鷹町、山交バス、新庄輸送サービス、庄内交通)
- ・定期券利用のPR、新たな定期券の販売(天童市、白鷹町、山交バス、庄内交通)
- ・沿線の地域や学校にモビリティ・マネジメントを実施。
(山形市、新庄市、上山市、金山町、山交バス、庄内交通)
- ・わかりやすい案内表示、バスマップの作成(新庄市、金山町、山交バス、庄内交通)
- ・その他(経路の一部見直し、鉄道や市町村営バスとの乗継改善、便数の適正化、市町村における新たな利用補助の検討など)

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

運行系統の概要については、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に定める「表1」を添付。

また、運行予定者は、令和元年5月10日から5月22日までに県ホームページ上で募集を行った結果、輸送サービスの品質、運賃、運行内容等を総合的に勘案して、現行のバス事業者3者(山交バス(株)、(株)新庄輸送サービス、庄内交通(株))を選定。

5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に定める「表2」を添付。

6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

山交バス株式会社、株式会社新庄輸送サービス、庄内交通株式会社

7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法

【活性化法法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】

※該当なし

8. 別表1の補助対象事業の基準二ただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要

【地域間幹線系統のみ】

(9)山交ビル(県立中央病院・高楯)天童温泉

運行系統の概要については、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に定める「表3」を添付。

9. 別表1の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧

【地域間幹線系統のみ】

- ・東根市

<p>10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 <u>【地域間幹線系統のみ】</u></p>
<p>別添資料「幹線系統バスの生産性向上に係る取組み一覧」のとおり</p>
<p>11. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 <u>【地域内フィーダー系統のみ】</u></p>
<p>※該当なし</p>
<p>12. 車両の取得に係る目的・必要性 <u>【車両減価償却費補助等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u></p>
<p>地域間幹線系統路線を運行するバス車両については、使用開始から20年以上を経過するなど耐用年数を大幅に上回っており、老朽化に伴い修繕費も年々増加している事から、早急な買い換えが必要となっている。</p> <p>しかしながら、幹線系統の路線バス事業は運行欠損を生じており、事業者単独で車両の取得を押し進めていくことは困難であり、車両減価償却費等国庫補助金の活用により、取得を進めるものである。</p> <p>取得にあたっては、高齢者等の移動等の円滑化に配慮するものとし、令和2年度は上記のうちノンステップバス4台を購入するものである。</p>
<p>13. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 <u>【車両減価償却費補助等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u></p>
<p>(1) 事業の目標</p>
<p>平成32補助年度末における乗合バスのノンステップ化率 70%</p>
<p>(2) 事業の効果</p>
<p>老朽化した車両の更新として車両を取得することにより地域間幹線バス系統の維持が図られるとともに、特にノンステップバスの導入促進によって地域で生活する高齢者をはじめとする移動制約者の日常生活に必要な移動手段の確保の一助となる。さらには、県民の社会参加促進や地域活性化にもつながる。</p>
<p>14. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の総額、負担者及びその負担額</p>
<p>地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表6及び表7」を添付。 なお、山形県は国庫補助金と同額を負担。</p>

16. 協議会の開催状況と主な議論

- ・令和元年6月20日 第1回バス対策協議会
- ・令和2年1月23日 (書面協議成立時) 山形県バス対策協議会を書面協議により開催し、平成31年度の事業評価について合意
- ・令和2年3月10日 (書面協議成立時) 山形県バス対策協議会村山、最上、置賜及び庄内地区協議会を書面協議により開催し、計画の変更について合意(意見なし)。合わせて、生産性向上の取組みについても協議し、別添一覧のとおり変更。
- ・令和2年8月24日 (書面協議成立時) 山形県地域公共交通活性化協議会庄内地域別部会を書面協議により開催し、計画の変更について合意(意見なし)。

17. 利用者等の意見の反映状況

平成30年6月27日に、利用者代表(40代女性、山形市内在住)に本計画に係るヒアリングを実施し、いただいた意見を踏まえて下記のとおり計画に反映させている。

- ・足の悪いお年寄りがなかなか乗車できないケースがあり、低床バスなどの乗り降りしやすいバスを多く導入してほしいとの意見があったため、車両の更新時には引続き国・県の補助を前提に、計画的にノンステップバスの導入を進めることとした。
- ・オレンジバスを使っており、区域内を走行する路線バスを自由に乗車できるため、便利に活用しているとのことご意見あり。今後、オレンジバスを利用できる範囲を拡大してほしいとの提案があり、料金徴収や企画などの参考とさせていただくこととした。
- ・バスの運行状況が分かるナビシステムについて、非常に便利だとのことご意見あり。一方、冬場はバスの接近情報があてにならないこともあるとの意見もいただき、今後のICTの利活用の面で参考意見として拝聴した。

18. 協議会メンバーの構成員

関係都道府県	山形県企画振興部長
関係市区町村	県内市町村バス担当課長(全35市町村)
交通事業者・交通施設管理者等	関係バス事業の代表者
地方運輸局	東北運輸局山形運輸支局長
その他協議会が必要と認める者	一般社団法人山形県バス協会会長 一般社団法人山形県ハイヤー協会会長 山形県交通運輸産業労働組合協議会議長

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住所) 山形県山形市松波二丁目8-1

(所属) 山形県みらい企画創造部総合交通政策課

(氏名) 主事 上村 愛実

(電話) 023-630-3417

(e-mail) ykotsu@pref.yamagata.lg.jp

表2 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額(地域間幹線系統用)

事業者名	山交バス株式会社
------	----------

1. 申請事業者の概要

補助対象期間の 前々年度(基準期間)の 損益状況	乗合バス事業						
	営業収益	925,296 千円	営業外収益	678 千円	経常収益(イ)	925,974 千円	
	営業費用	1,208,973 千円	営業外費用	430 千円	経常費用(ロ)	1,209,403 千円	
	営業損益	△ 283,677 千円	営業外損益	248 千円	経常損益	△ 283,429 千円	
補助対象期間の前々年度の 実車走行キロ(ハ)	3,897,051.7 Km					経常収支率	76.56%

基準期間の前年度の 損益状況	乗合バス事業						
	営業収益	900,097 千円	営業外収益	590 千円	経常収益(イ')	900,687 千円	
	営業費用	1,204,841 千円	営業外費用	563 千円	経常費用(ロ')	1,205,404 千円	
	営業損益	△ 304,744 千円	営業外損益	27 千円	経常損益	△ 304,717 千円	
基準期間の前年度の 実車走行キロ(ハ')	3,981,055.1 Km					経常収支率	74.72%

基準期間の前々年度の 損益状況	乗合バス事業						
	営業収益	970,660 千円	営業外収益	616 千円	経常収益(イ'')	971,276 千円	
	営業費用	1,205,669 千円	営業外費用	1,246 千円	経常費用(ロ'')	1,206,915 千円	
	営業損益	△ 235,009 千円	営業外損益	△ 630 千円	経常損益	△ 235,639 千円	
基準期間の前々年度の 実車走行キロ(ハ'')	4,063,100.4 Km					経常収支率	80.47%

(補助対象事業者の「基準期間を最終年度とする連続した過去3年間」における実車走行キロ当たり経常費用等)

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行キロ当たり 経常費用(基準期間の前々年度) ロ'÷ハ'=a	補助対象事業者の実車走行キロ当たり 経常費用(基準期間の前年度) ロ÷ハ'=b	補助対象事業者の実車走行キロ当 たり経常費用(基準期間) ロ×ハ=c
羽越	297円04銭	302円78銭	310円33銭

2. キロ当たり補助対象経常費用及び経常収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行キロ当 たり経常費用 (a+b+c)/3=ニ	地域キロ当たり 標準経常費用 ホ	キロ当たり経常費用 ニとホのいずれか少ない額 ヘ	キロ当たり経常収益 イ×ハ=ト
羽越	303円38銭	336円83銭	303円38銭	237円60銭

3. 補助対象系統ごとに要する費用、負担者とその負担割合

補助 ブ ロ ッ ク 名	申 請 番 号	特 例 措 置	運 行 系 統 名	運 行 系 統			計 画 運 行 日 数	計 画 運 行 回 数	計 画 平 均 乗 車 密 度	計 画 輸 送 量	系 統 キ ロ 程	地 域 公 共 交 通 再 編 組 事 業 に お け る キ ロ 程	系 統 キ ロ 程 と 地 域 公 共 交 通 再 編 組 事 業 に お け る キ ロ 程 と の 比 率	補 助 ブ ロ ッ ク 外 乗 入 部 分 の キ ロ 程	同 一 補 助 ブ ロ ッ ク 都 道 府 県 外 乗 入 部 分 の キ ロ 程	他 路 線 と の 競 合 部 分 に 係 る キ ロ 程	他 路 線 と の 競 合 部 分 の 比 率	補 助 ブ ロ ッ ク 外 乗 入 部 分 、 同 一 補 助 ブ ロ ッ ク 都 道 府 県 外 乗 入 部 分 及 び 他 路 線 と の 競 合 部 分 以 外 の キ ロ 程 の 比 率			
				起 点	主 要 経 過 地	終 点													①=カ ッコ 内	②	①×② =③
羽 越 ブ ロ ッ ク	第1号	無	山形市役所(六角・荒砥)長井	山形市役所前	荒砥	道の駅川のみなと長井	365日	2,190.0回(5.9)	3.5	20.6人	45.7 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第2号	無	山交ビル(荒谷・石倉)天童	山交ビル	荒谷橋石倉	天童駅前	365日	4,964.5回(13.5)	3.9	52.6人	19.7 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第3号	無	県立中央病院(表蔵王・四ツ谷)高松葉山	県立中央病院	表蔵王四ツ谷	高松葉山温泉	365日	2,429.0回(6.6)	4.0	26.4人	21.1 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	11.5 km	54.285%	45.714%
	第4号	無	山形(若葉町・南山形)高松葉山	千歳公園待合所	若葉町南山形	高松葉山温泉	365日	5,701.0回(15.5)	5.1	79.0人	19.0 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第5号	無	寒河江駅前(松川・左沢)宮宿	寒河江駅前	松川左沢	朝日町役場前	365日	1,897.5回(5.4)	2.7	14.5人	23.1 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第6号	無	寒河江駅前～谷地	寒河江駅前		ひなの湯産直センター前	365日	4,241.0回(11.5)	4.6	52.9人	11.6 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第7号	無	山交ビル～寒河江駅前	山交ビル		寒河江駅前	365日	7,128.5回(19.0)	3.1	60.1人	19.6 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第8号	無	天童(東根市役所)北町	天童駅前	東根市役所前	北町	365日	2,542.0回(6.9)	2.6	17.9人	18.0 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第9号	無	山交ビル(県立中央病院・高橋)天童温泉	山交ビル	県立中央病院・高橋	わくわくランド	239日	717.0回(3.0)	5.0	15.0人	24.5 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第10号	無	山交ビル(漆山)天童温泉	山交ビル	漆山	わくわくランド	365日	8,428.5回(23.0)	3.4	78.2人	18.0 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
	第11号	無	県立病院～金山	県立病院前	泉田	金山	365日	3,322.0回(9.0)	5.3	47.7人	17.5 km	km(平均)	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	100%	
合計			12 系統								237.8 km	km	0.0 km	%	— km	— km	— km	— km	11.4 km		